

尿酸値が高いと認知症リスク低下

血清尿酸値が低いと抗酸化力が損なわれる可能性があり、認知症リスクが高まることが報告されている。一方で、血清尿酸値が高いと心臓血管リスクが高くなり、認知症とくに脳血管性認知症のリスクが増大する可能性がある。本研究では、血清尿酸と晩年の認知症リスクとの関連について検討した。

1968～1969年に38～60歳の女性1,462人を対象に、44年間(平均33.1年)追跡したところ、血清尿酸値の高値は、認知症の低リスク(n=320、ハザード比0.81)、アルツハイマー病の低リスク(n=152、ハザード比0.78)および脳血管性認知症(n=52、ハザード比0.66)と関連していた。

今回の結果は、認知症のサブタイプにかかわらず、血清尿酸が認知症の発症に保護的な役割をもつという仮説を支持するものであった。また、痛風患者の認知症治療や高尿酸血症の治療目標に重要な意味をもつ可能性がある。

出典:Alzheimer's and Dementia. 2019 Jun;15(6):754-763.